



— チェルノブイリに思いをよせて —

ポレーシェ

～原発事故を伝えていく 子どもの絵の展覧会～

「チェルノブイリ・福島—今日の子どもたちの生活」

2016年4月26日 チェルノブイリ原発事故 30周年の祈念の日。そして福島原発事故の5周年。ウクライナ・ジトーミル市青少年芸術センターと慈善基金「チェルノブイリの人質たち」が主催して、4月にウクライナで、子ども達の絵の展覧会が開催されます。この目的は、「原子力の問題に青少年の関心を集め、若い人たちに事故処理作業員・被災者への敬意を培い、これらの重要な出来事の意味を創造的に把握させること」とされています。

大惨事から30年が経ち、ウクライナにおいても、子ども達・若い世代にとって事故は遠い過去の歴史となってきています。そこで子ども達に、絵を描くこと、展覧会を通して、「原発事故で何が起こったのかを感じ、理解してもらおう」「『原子力の平和利用』によっておこった出来事に対する自分の見方を表現しよう」という試みなのです。そして**日本の子ども達にも、展覧会への参加が呼びかけられています。**

日本では5年が経過し、被災地以外ではすでに風化が心配されています。チェルノブイリでは、ウクライナの支援に取り組んできた学校に、展覧会への参加を呼びかけています。

皆さんもこの機会に、子ども達と一緒に福島原発事故を考え、絵を通してウクライナと交流してみたいかがでしょう。

なお、子どもの絵のテーマは、「自分たちの暮らし」です。
(戸村 京子)



<レクサンドラ・スズンカ(13歳)
「ウクライナの守護天使」>



<マルイ・ブイズガン(16歳)
「チェルノブイリの木」>

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞5階B

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名：三菱東京UFJ銀行 名古屋営業部 (店番号 150)

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

★南相馬市の運営する測定所(9ヶ所)に、昨年6月以降「非破壊式放射能測定器」が導入され、検体数が大幅に増えてきています。検体を細かく刻まなくても、ほぼそのままの状態での測定が可能です。とどけ鳥でも①非破壊式測定器の導入②4月から小高区解除に向けた体制づくり、この2点を軸に、ジャパンプラットフォーム(JPF)に助成金申請を行いました。12月下旬、残念ながら不採用の結果が届きました。しかし、これらはとどけ鳥の継続に喫緊の課題でもあります。4月からの小高区解除に向けて、区内での測定受付・測定体制の整備をし、非破壊測定器導入の助成金申請も再度トライする予定です。読者の皆様のご支援も、よろしくお願いいたします。

★2016年も、春と秋2回の放射線量率マップ作成(南相馬市・浪江町)の測定活動を行います。1月のチェル救運営委員会で年間計画として日程を確定しました。

春の第11期は、4/16・17と4/23・24の2週です。(詳しくは同封の募集チラシ参照)

秋の第12期は、10/15・16と10/22・23の2週です。

予定に入れ、どうぞ早めに事務所までお申し込みください。

現在、とどけ鳥事務所には、昨秋の測定参加者から「富岡町でも自主的にマップを作りたい」との要望があり、地図を取り寄せ測定ポイントの確定等々の作業中です。富岡町の面積はそれほど広くはなく、3月中の測定実施に向けて準備を加速しています。

★昨秋播種した42haの菜種は、一部を除いて暖冬の影響か、今まで以上の速さで生育しています。一面が青々とした菜種畑が広がり、春の開花が目に見え始めるような光景です。しかし、喜んでばかりはいられません。収穫時期が短く、梅雨時期で乾燥作業も手早くしなければなりません。現在の機械力では間に合いません。それらも含めて、「再生協議会」は機械力アップを目指し、助成金申請を行いました。

また、昨秋来始まった「搾油所建設・バイオガス装置設置」に向けた市との協議も3回行い、県との協議も新たに始めました。実現に向けて、今春中に計画概要とロードマップを策定し、それを基に行政と本格的な協議に入る予定です。搾油所は、是非とも2017年度中の完成を目指したいと考えています。バイオガスは、2016年度から燃料作物の本格的な実証栽培(約10ha)とエネルギー効率の研究、2017年度から本格的栽培(100ha以上)を目指し、数年以内に大型のバイオガス装置の完成を考えています。「油菜ちゃん」の販売強化に向けて、12月より相馬農業高校食品科学科の先生・生徒が、ドレッシングの開発を行っています。4月頃を目途に作業を終え、夏前頃からの発売を考えています。

今年も「菜の花見会」を4月30日に開催します。

(詳細は2月中旬にHPで発表 minamisoma-nouchisaisei.org)

★4月から、小高区を中心とした南相馬市20km圏内の「避難解除/帰還」の準備が進んではいます。昨年8月からの長期滞在許可は、2月末まで延長となり、実質的に帰還したい人たちの受け入れは始まっています。現在、長期宿泊申請者は約1,100名(小高区人口の約1割)いますが、宿泊・生活を継続中は半分と言われています。区役所・病院・郵便局・銀行等は営業中で、若干の商店も開店中ですが、食品店は少なく、とりわけ生鮮食品店は開いていません。JRは、「4月から小高駅まで開通」を目指して沿線を整備中です。2014年12月から営業している食堂「おだかのひるごはん」は、3月11日で営業を終了し、店舗を貸していた「双葉食堂」が、5月頃に鹿島復興仮設店舗から戻って、営業を再開する準備が進んでいます。

5年目の3月11日が間近に迫り、復興・帰還の声が大きくなりつつありますが、「森林除染の放棄」「中間貯蔵施設の未進捗」「帰還者への放射能防護体制の不備」等々、既成事実の積み上げで放射能汚染を拭い去ろうとする政府・行政の態度を一層迫及し、私たちの測定活動の輪を広げなければなりません。



＜青葉幼稚園のウェルカムボード＞



＜向かって左が大川さん＞

初めて南相馬をおとずれて (大川 翔矢)

チェルノブイリ救援・中部の山盛さんから、「今年もお手伝いしてくれないでしょうか」と、お誘いのお電話をもらったのが去年の9月頃だった。事務所のお手伝いだけのつもりだったが、今回南相馬を訪問する機会をいただいた。

一昨年に、インターン生としてクリスマスカードキャンペーンを担当させていただいた時は、学業も忙しく、僕はクリスマスカードキャンペーンを全うすることで頭が一杯だった。事務作業がメインで、皆さまから送られてくるクリスマスカードは、ユニークで温かみのあるものが多く、楽しんでやれたことを覚えている。送られてきたものにはすべて目を通した。そして、皆さまからいただいたクリスマスカードを無事発送した...というのが、一昨年の僕のクリスマスカードキャンペーンだった。

今回はさらに、この発送した先、福島以南相馬市で、実際にクリスマスカードを配るということをやらせていただいた。去年からのクリスマスカードキャンペーンの担当は、Nたま13期生の加藤さんがメインで担当していたことや、自分の学業が

落ち着いてきたという要因もあり、南相馬に向かうことができた。僕にとって初めての、被災地の訪問となった。

初めて訪れた南相馬の地は、僕にとって驚きの連続であった。最初に訪れた日に、事務所で少し作業をしてから、被災した場所を案内してもらった。今までニュースでしか見たことのない被災の地に足を踏み入れ、月並みの表現ではあるが、自分の想像していたものと現実とのギャップを激しく感じた。車で移動している間にも、当時の様子をたくさん話していただいた。とにかく衝撃の連続だった。

2日目と3日目は、市内の幼稚園・保育園にクリスマスカードを配りに行った。サンタさんの恰好をして配りに向かった。おとしは、事務作業で締めくくったクリスマスカードキャンペーンだったが、自分の手で配り、子ども達の笑顔を見れたのは、素直に心地のいい気分だった。震災後に生まれた子ども達ばかりだった。「彼らの笑顔、そして未来を守るのは自分たちなんだなあ」とも感じた。

カードを配る合間に、市内のいろいろな場所を訪れたが、そういえば自分は南相馬市のことを「被災した地域」としか認識していなくて、南相馬市がそもそもどんな地域なのか調べてこなかったことを後悔した。ここは、こんなにも素敵な地域なんだなあと思い、クリスマスカードキャンペーンをやり遂げるためにきたつもりが、すっかりこの地域の魅力にやられてしまった。



東日本大震災 犠牲者追悼式 2016

あの日から5年。

犠牲になった方々へ、追悼の意を愛知・名古屋から捧げます。
約2万本のキャンドルを点灯し、黙とうと献花を行います。

愛知県から東北支援を行っているNPO・ボランティア・企業など、市民を中心に追悼式典を開催します。私たち「チェルノブイリ救援・中部」を含めた12の団体が実行委員会を作り、半年前から協議を重ねてきました。多くの賛同機関・団体・個人が参加の呼びかけに応え、亡くなった被災地の方々へ、純粹に哀悼の意をささげる場とします。

- 日時：2016年3月11日（金） 13：00～19：00 （*少雨決行）
- 会場：久屋大通公園 久屋広場（地下鉄名城線「矢場町」5・6番出口 徒歩1分）
（地下鉄東山線「栄」14・15・16番出口 徒歩3分）

●タイムテーブル

- 13：00 キャンドル点火・記帳
- 14：30 追悼式典 開会
- 14：35 献花 開始
- 14：46 黙とう・宣言
- 14：50 追悼式典 閉会
- 18：46 黙とう・宣言（黙とうは2回行います）
- 19：00 キャンドル消灯・献花 終了



〈東日本大震災 犠牲者追悼式 2015〉

- 主催：東日本大震災犠牲者追悼式 あいち・なごや実行委員会
- 後援：愛知県、名古屋市、岩手県、陸前高田市、宮城県、福島県 他（順不同）
- 問い合わせ：東海岩手県人会事務局（石井法律事務所） 052-933-2080
<http://tsuito311-aichi-nagoya.jimdo.com/>

●同時開催のご案内：

- ◎「ウクライナの子ども絵画展」(P5参照) 3/11 11：00～17：00、3/12 11：00～16：00
会場：名古屋YWCA・2F（地下鉄「栄」5番出口徒歩3分） *入場無料
主催：チェルノブイリ救援・中部
- ◎講演会「福島原発事故から5年 手をつなぎ、たたかい続ける 被害者たちのいま」
お話：佐藤和良さん 3/11 14：00～17：00（14:26会場にて黙とう）
会場：名古屋市市民活動推進センター（ぼらんぼ） ナディアパーク6F
主催：未来につなげる・東海ネット *参加費800円

「ウクライナの子ども絵画展」開催にあたり

(ロンドンより 稲葉 広子)

私は、イギリス 30 年在住の日本語教師、稲葉広子と申します。2007 年にキエフ市で開催された写真展のお手伝いをしたことがきっかけで、チェルノブイリ被災者団体「ゼムリヤキ」で半年に 1 回、子ども達に日本語を教えるようになりました。

「ゼムリヤキ」では、事故後 10 年から、子ども達に「原発事故を忘れさせないため」に近隣の学校を訪問して事故のビデオを見せたり話をして、その感想を絵や詩に表現してもらい、4 月 26 日の記念日にコンテストをしておりました。テーマは「地球を救おう」です。

3 年前にそれらの絵を借り、40 点をロンドンの欧州復興銀行 (EBRD) で 1 か月間展示していただきました。絵画展は好評を博し、インターネット上でも紹介されました。ウクライナでは十分な画材もない中 (殆どが画用紙でなくコピー用紙)、あまりにも素晴らしい絵ばかりで、子ども達の汚れない心で描かれた絵の前では「原発反対!!」と声高に叫ぶ必要はありません。人間の起こした愚かな間違いを人々の心に強く訴えるものです。

福島事故が起きた時、代表のタマーラさんはすぐさまキエフの日本大使館に赴き、自分達の体験から学んだことを共有したそうです。今年は“チェルノブイリ 30 年、福島 5 年”、福島の子どもの絵も加え、なんとしても日本で開催をしたいと思いました。福島からの避難者をサポートされている東京の方から、「わたしのゆめ」というタイトルの絵を 20 枚お借りしました。

大阪では「日本ウクライナ文化交流協会」のご協力で、近鉄百貨店上本町店にて「ウクライナウィーク」と題して、3 月 26 日～31 日まで開催が決まり、「在日本ウクライナ大使館」の後援もいただきました。

京都では、今年がキエフと京都との姉妹都市提携 45 周年ということで、京都市教育委員会の協賛が得られ、京都の子どもの絵も参加します。4 月 26 日～5 月 1 日まで、京都市国際交流会館での開催となりました。

東京では残念ながらスポンサーが見つからず、私が個人で 4 月 15 日～17 日まで紀伊國屋書店を 3 日間予約しました。静岡展は、静岡県文化施設「グランシップ」で 4 月 22 日～24 日までの開催です。

3 月 11～12 日の名古屋展、3 月 18～20 日の南相馬展 は、チェル救でお世話になりますが、どうぞよろしくお願いたします。

チェルノブイリ 30 年・フクシマ 5 年

ウクライナの子ども絵画展

日にち: 2016 3 月 11 日(金) 11 時～17 時
12 日(土) 11 時～16 時

入場
無料

ところ: 名古屋 YWCA 2 階 地下鉄 栄駅④出口より 徒歩 3 分

チェルノブイリ原発事故により強制疎開となった被災者の団体「ゼムリヤキ (同郷の人たち) (ウクライナ・キエフ市) の子どもたちの絵画を展示します。

チェルノブイリ原発事故 30 周年・フクシマ 5 年の今年。子どもの目を通して原発事故が何をたらしたかを訴え、そして次世代に被災者のおもいを伝えていきたいと思います。



特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 : 主催
特定非営利活動法人名古屋 NGO センター : 協力
在日本ウクライナ大使館 : 後援

冬のウクライナに行ってきます

(伊那市 小牧)

現 地 日 程	
1/29(金)	午前 中部国際空港発 18:30 ポリスポリ空港着 キエフ泊
1/30(土)	ジトームルへ。ホステージ基金との話し合い ヘルマンチュク及びヴォズニュークとの面談
1/31(日)	ホステージ基金との話し合い 「母親たちの希望の光」キャンペーンで、 K.D.ボウクンとの面談アントニュークとの面談
2/01(月)	ナロジチへ移動。A.N.レオンチュクとの面談 ナロジチ地区病院訪問、オヴルチ地区病院訪問
2/02(火)	ジトームル市 25 番学校訪問 (国際交流授業) 被災者 2 団体との面談
2/03(水)	非常事態局医療センター訪問 血液生化学分析器引き渡し 「チェルノブイリの消防士たち」との面談
2/04(木)	ホステージ基金とのまとめの話し合い キエフへ移動
2/05(金)	09:30 日本大使館訪問 14:05 ポリスポリ空港発

暖冬により穏やかな新年のスタートを切ったものの、ここにきて厳しい寒波襲来。我が家の裏につるされた寒暖計は、今朝マイナス 15 度を記録し、冬のウクライナに向かうのに、うってつけの気象条件となりました。

1月29日～2月7日の10日間、原さんとウクライナに行ってきます。私自身は3年ぶり。前は「ナロジチで進めている菜の花プロジェクトの進展具合を確認する」という課題がありましたが、今回は大きく後退しています。

お会いするのは、被災者3団体の代表者、被災地ナロジチ・オブルチの行政・病院関係者、そしてカウンターパートのホステージ基金など。事故後30年を迎えようとしている北ウクライナの被災地・被災者の実情を、できるだけ正確に把握し、今後どのような関係を築いていくのかを探るのが課題でしょうか。

その関係を考える上で、ここで少し長いですが、アレクシエーヴィチさん（ノーベル文学賞受賞）が2003年秋の伊那公演で語ったメッセージを紹介します。

『…すべての人にとって、新しい世界観が求められていると思う。ベンツや新しいコンピューターではなく、人の命を大事にする世界観が…。また、小さき人々が、自分の命を権力や学者の手にゆだねてはならない。自分のために自分を尊重するために、戦わなければならない。そういう戦いは、日本でもベラルーシでもフランスでも、行っていかなければいけない。なぜなら、チェルノブイリ後の世界は本当に小さなものになって、私たちは一つの小さな船に乗り合わせた人々だからです。私たちはそのために、忍耐が必要であると同時に勇気が必要です。皆さんがその勇気を持たれることを私は願っています…。』

「チェルノブイリ後、一つの小さな船に乗り合わせた私たち」が、経験を共有するための太いパイプをつくっていくことが、今まで以上に求められているのでしょう。

間もなく、3.11から5年目を迎えます。「事故終結の目的は全く立っていないのに、避難者の帰還計画は着々と進められている」という奇妙な現実があります。25年前の夏、事故後5年を経過した北ウクライナの被災地を初めて訪れました。そこでは、「チェルノブイリ法」によって厳しい基準が定められ、新たに大規模な避難・移住事業が進められるという、現在の日本とは逆の動きが進行中でした。この法は、被災者団体や市民の粘り強い働きかけにより制定されたものです。

被災者の苦悩に直面し、何度も胸塞ぐ思いにかられましたが、一方で現地でお会いした方々の明るい表情に救われもし、また驚きもしました。それは、「小さき人々」の声がようやく政治に届くようになったことによるのではないかと、今になって思い至りました。その辺の経験談もお聞きできればと思っています。

ウクライナ東部紛争により 更に苦しむ事故処理作業者に支援を！

チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

2014年に始まったウクライナ東部紛争は、ウクライナ国内の多くの人々を苦しみの中に突き落とししました。私達が長年支援してきた、チェルノブイリ原発事故の「事故処理作業員3団体（リクビダートル基金・「障害者」基金・消防士基金）」の人々も、被害を受けています。

事故処理作業員は、チェルノブイリ原発事故の際、消防・食事づくり・治療・資材搬入・運転・交通整理など、体を張って事故収束処理に当たった人々です。その結果、彼らは被曝し様々な病気を発症しました。病気は、癌・心臓血管疾患・甲状腺・糖尿病・高血圧・骨筋肉の病気・リュウマチ・肝臓病・腎臓病・脾臓病…など、多岐にわたっています。

事故処理作業員に対して国は、医療費・交通費の無料化、年金の繰り上げ支給、無料保養券の発行、子どもの教育費の免除などの保障（補償）をしてきました。しかし、ウクライナ経済の混乱により徐々に保障（補償）は削られてきました。特に2014年から始まったウクライナ東部紛争は、事故処理作業員に大きな痛手を与えています。

昨年、「チェルノブイリ救援・中部」のウクライナ派遣で明らかになったことは、

- ① 汚染地域4ゾーン（避難・特別規制地域、移住義務地域、移住権利地域、放射能管理地域）の格下げ（廃止）の動きがあり、放射能管理地域は廃止された。
- ② 事故処理作業員の保養券は、第一カテゴリーのみに変更された。
- ③ 市内公共交通費無料は、第一・第二カテゴリーのみに変更された。
- ④ 東部紛争の影響で、国民の8割の生活が苦しくなり、ガス・電気代など公共料金が値上がりした。
- ⑤ 輸入薬が2~3倍に値上がりした。
- ⑥ 入院費が払えないため、入院できず家で寂しく死んでゆく。
- ⑦ 医療費無料や子どもの食事手当が、全て打ち切られた。
- ⑧ 国産の薬の半分は粗悪品で治療効果がない。…などです。

また、これまでは事故処理作業員団体に対して市民や企業から寄付があり助けられたが、今の国民の関心は、戦争と戦争犠牲者に向いてしまい、寄付は全く無い状態です。

私達は昨年、彼らの声に応えるべくキャンペーンなどを行うべきだったのですが、できずに来ました。最近では、戦争状態が膠着化する中で、銀行が倒産し、日本から振り込んだ支援金が引き出せないという事態も生まれています。この問題に対処するとともに、これを機にしっかりと再び「事故処理作業員の支援キャンペーン」を行うことになりました。

「特別な困難」を抱えるチェルノブイリ事故処理作業員に対するカンパをお願いします。



2016年4月1日から電力の小売り自由化が施行され、一般家庭でも電気を選ぶことが可能になる。それに伴い、ガス会社や携帯電話会社、ネット企業なども含めて電気の安売り合戦が激しさを増している。一方で、電力小売り自由化に伴い、脱原発のきっかけになるとの期待も高まっている。実際はどうか。

始まった東電離れ

昨年12月に行われた世論調査によると電力自由化が始まったら、東京都民の56%が「東電から電気を買わない」と回答した。理由の第一は「より安い電気を使いたいから(35.3%)」で、第二が「原発の電気を使いたくないから(28.2%)」だった。

福島原発事故で、東電は被災者への補償金や除染・廃炉など、膨大な対策費用を必要としているが、その多くは国民の税金から国が補填している。国の支援がなければ東電はとっくに破綻しているはずである。

また、これまで、すべての電力会社は「総括原価方式」と呼ばれる国の制度で、かかった費用はすべて電気料金に組み込み消費者から吸い上げて、損失は絶対起きないシステムで守られてきた。原発誘致のための予定地への賄賂まで、電気料金に含めていた。こうした電力会社優先の時代は、電力の小売り自由化によっていよいよ終わろうとしている。経産省によれば今年1月18日時点で、登録を済ませた電力小売り業者の数は、全国で130社に上る。このきっかけになったのは、現在、電力会社が保有する送電網を小売業者が利用できる「託送料金制度」を、経産省が昨年12月18日に認可したからである。しかし、本格的に自由化が始まるのは発送電分離が始まる2018年からである。それまでは、送電網は電力会社のものであり、完全自由化ではない。

抱合せによる電気料金

現在、競争が激化している小売業界の電気料金安売りキャンペーンの多くは、電気料金と携帯電話やガスとの抱き合わせで、これまでの売り上げをさらに伸ばそうとするものである。それらの小売業者の電力調達先には電力会社も含まれ、原発の電気も

当然含まれることになる。小売り業者が自社の購買電力の内訳を明らかにするかどうかは不明であり、業者によっては「今後も明らかにできない」と明言している所もある。国は「小売業者が電源構成比を明示するかどうかは努力目標である」として、義務化していない。従って、電力自由化が即ち脱原発につながる訳ではない。

再生可能エネルギーを自力で

新規登録された電力小売業者の中には、地方自治体や生協、地域の企業など自力で再生可能エネルギーによる電力を作り、販売を目指している企業も出てきている。こうした小売業者はもちろん電源構成を公表し、それを売りにして販売網を広げようと努力している。当面の販売価格は、必ずしも電力会社や大手小売業者のそれには及ばないかもしれない。しかし、そうした志のある業者が増えることこそが脱原発につながる。消費者の選択がそれを保証するのである。例えば、福島原発事故のあと脱原発を国の目標に掲げたドイツでは、農家を中心としたバイオガス発電所が5000基以上稼働している。2014年度のドイツの再生可能エネルギーによる発電比率は全電力の26.2%で、初めて原発(15.8%)や石油(17.8%)を超えて最大の割合になった。それに伴う雇用も増加している。

電力自由化を脱原発の力に

既に述べたように、電力自由化が自動的に脱原発につながる訳ではない。しかし、それをもたらすのは一人一人の市民の自覚であり意思である。未だに終わらないチェルノブイリとフクシマを未来の教訓にできるのは、私達自身であることに自信をもとう。(2016年1月24日 河田 昌東)

「チェルノブイリとフクシマ—原発事故被災者と心をつなぐ交流会」(3回連続講座②)

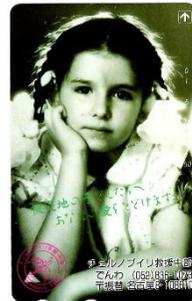
(戸村 京子)

2016年1月24日(日)午前10時30分より、名古屋NGOセンターにて「チェルノブイリ／フクシマ講座」を行いました。関東地域からの避難者3名の方の参加もあり、母子避難で子ども達も一緒に来てくれました。小人数でゆっくり思いを語り、交流できました。

まず、チェルノブイリ被災地ナロジチ地区の様子や住民の方たちとのエピソードなどを話しました。そして「ホステージ基金」から2日前に届いた、ウクライナでの新しいプロジェクト「母親たちの希望の光」に寄せられた手紙をさっそくご紹介しました。

この女性は、最初の手紙集『たった一回の原発事故で』(1993年発刊)に、事故から5年目の様子を綴った手紙をくださったエカテリーナ・ポウクンさん。次の『チェルノブイリからの手紙—10年目のチェルノブイリ』(1997年)でも、郷愁の念に堪える避難後の生活や病気がちの娘のことなどを伝えてくれました。そして今回、30年目の現在の生活、チェルノブイリ事故後をどう生きぬいてきたか、日本の支援に励まされてきたこと、フクシマで同じ災厄に見舞われた日本の被災者への励ましなどが書かれていました。実はポウクンさんは、チェル救のリーフレット表紙の「アヌーシカちゃん」のお母さんで、「アヌーシカちゃん」は現在、丸々と元気な坊やのママになっていたと分かりました。チェル救スタッフも、30年の年月に感慨ひとしおでした。

参加された方は、「『困難を乗り越える強さを持って』という言葉に力をもらった」、「避難して声を出せない、声なき声に耳を傾けて」、また「自分たちも放射能の問題などについて調べ、行動を起こしていかなければ」と話されました。そのほか、「若い世代へ伝えていくことの大切さ」など意見を交換しました。【次回は、4月2日(土)10:30~12:30です。】



〈アヌーシカちゃん〉



〈アヌーシカさんと坊や〉

静岡サレジオ小学校 訪問記

(原 富男)

12月25日に、サレジオ小学校のクリスマス会に招待され参加しました。サレジオ小学校は静岡市にあり、私の住む長野県からは、車で3時間余りかかりました。静岡市は、私も参加している「子ども問題研究会」の夏合宿が大井川源流部の青部で行われていることや、「古物仕事の業者市」が行われる場所なので、馴染みがあり出かけやすい場所でした。

初めて訪れるサレジオ小学校は、予想していたよりも随分大きく立派な建物でした。受付に行くとき生徒が座席まで案内してくれ、この学校の生徒はしっかりしていると感じました。

毎年、この会に救援・中部は招待されており、チェルノブイリの被災者に対する支援金をいただいています。来賓席の私の隣は、静岡市の社協の方でした。クリスマス会は「走れメロス」のオペレッタを中心に行われ、熱演する生徒の姿勢は清々しいものでした。サレジオ小学校は、キリスト教精神を教育の原点に置いておられるようです。私も子どもの頃、カトリック教会の保育園に通い、洗礼を受けた経験があるので、子どもの頃の幸せな時期に戻り、包まれるような懐かしさと安心感に浸りました。



オペレッタ終了後、壇上に案内され生徒会と後援会から寄付金をいただきました。生徒会の寄付金は、給食のおかずを一品節約する日を設けて作ったお金です。昨年はウクライナの汚染地域のナロジチ幼稚園(一人の子どもが3~4の深刻な病気を抱えています)にこの支援金は使われました。いただいた寄付金は、1月末のウクライナ訪問時に持参することにします。

10期20次測定隊に参加して

(蔵方 周一)

震災後、私の住む東京大田区にも、区が委託運営する放射性物質測定室が設置されました。自宅で採れる柿の線量測定を依頼したりしていたのですが、設置されている測定器の同一機種が「とどけ鳥」で使われているのを知り、被災地でどの様な測定結果が出ているのか気になっていました。

2013年10月に「とどけ鳥」内での映画上映会に合わせ、初めて伺って見学させていただきました。その後も、個人的に数回、日帰りで南相馬を見に行く毎に立ち寄らせていただいていたのですが、測定隊にも参加したいと思っていたのですが、ようやく昨年からは泊りでの予定が立てられるようになり、三年越しで初参加することができました。測定では、同行された地元の方の話も楽しく、測定しながら歴史散歩の様相でとても勉強になりました。測定後の見学で、相馬の一本松、小高のお祭り、北泉海岸の隣接水路が崩れかけたままの壁、「菜の花プロジェクト」の栽培地、津波被害のまま保存されている住宅など、気になってはいても一人ではなかなか行けない場所を回っていただき、感謝しています。「希望の牧場」では、汚染牧草を搬入する大型トレーラーの横で、「一台が二日分」と聞き驚きました。「富岡で同じように牛保護をしている松村直登さんの分もある」との話から、私が映画「ナオトひとりっきり」を見に行ったことを話すと、即座に「ありがとうございます！」と答えていただき、恐縮至極でした。11月には「汚染牧草が白石市の事業で搬入」と報道され、喜ぶかと思えば、同時に「浪江町長が白石市へ、汚染物質搬入に抗議を申し入れ」の記事。改めて、汚染対応の難しさを感じました。色々と知るにつれ個人の限界を感じ、であるからこそ「できることは、事実を知りひとつひとつ積み上げ残して行く事しかないのだ」とつくづく思います。何世代にわたるかは想像もつきませんが、わずかなお手伝いを続けさせていただければ…と考えています。

「菜の花プロジェクト」への思い

(後藤 陽子)

昨年、救援・中部の神野さんに会い、河田昌東さんを紹介していただきました。河田さんの講演を聞き、本を読み、そして福島（南相馬）のための「菜の花プロジェクト」を、私はその時初めて知りました。菜の花が、セシウム等の放射能を土壌から効率よく吸い上げてくれる性質を利用して、農地の浄化・農業の再生に役立てる試みです。このプロジェクトがどんなに素晴らしいものであるか、とても衝撃を受けました。そんな中、昨年の10月に測定隊として参加させていただきました。南相馬市では、2日間の放射線量測定作業、被災地を視察、地元の方との交流会等、原発事故から4年半という歳月が経っているのに、新聞やテレビでは知り得ない、私の想像をはるかに超えた状況に心が震え、言葉が出ない思いをしました。原発事故と言う誰もが経験をした事がない事を、厳しい環境の中で模索しながら、ゼロからではなくマイナスから何とか再建しようと、皆が頑張っていました。そんな「菜の花プロジェクト」は、福島（南相馬）に一筋の光が見えた如く、希望が湧いたプロジェクトだと思います。原発から避難をした若い人たちは、帰ってきていないようでした。でも、いつかは戻りたいと多くの方が思っているようです。住民は、活気があり良いところだった故郷に愛着を持ち、先祖から引き継いだ大事な土地を大切に思っていました。それでも現実には、人が居ない所に帰ってきて、本当に帰ってきたと言えないかもしれません。人知れずのところを車で走っていると、とても切なく思えました。私と一緒に測定をしてくださった彼女は、原発で断ち切られた家族と「故郷に戻ろうか」「いかにしようか」と、今も意見の違いに悩んでいました。「やりきれない心の葛藤が続いている」と言っていました。測定作業中、二人で小高い山の上で、やりきれない気持ちを「〇〇のバカ野郎～」と叫んでやりました。あちこちに積みあがっている原発の爪跡の放射線土壌が、ますます憎々しく思えました。今年の春には鉄道が再開し、菜の花畑が電車の窓から一面に見えると聞いています。日本で一番広い菜の花畑ができるそうです。バイオエネルギー施設が作動して、住民の活気が少しでも取り戻せたら…。測定で一緒に暮らした彼女の家族と一緒に暮らせる事を、切に願いたいと心より思っています。



《「油菜ちゃん」の効能》

《家庭用食用油の成分比較》 100g 当たり g 数 (概略中心値)

食用油には「なたね油」を！
南相馬の「油菜ちゃん」を！！

「オレイン酸」と「リノール酸」

家庭用の食用油(なたね油・オリーブ油・ごま油・コーン油など)の主成分は、「オレイン酸」と「リノール酸」です。

「オレイン酸」には、悪玉コレステロールを血管内に沈着しにくくさせ、血中コレステロールを下げる効果があると言われ、この為、動脈硬化や心臓疾患を予防する効果があるとされています。また「単価不飽和脂肪酸」であるため酸化されにくく、発がんのリスクを高める過酸化脂質の発生を抑制します。

食用油	不飽和脂肪酸(常温で液体の脂肪)	
	オレイン酸	リノール酸
	オメガ9系 (単価)	オメガ6系 (多価)
オリーブ油	71	10
なたね油	55	21
ごま油	40	45
コーン油	33	47

(注) 不飽和脂肪酸は、他の分子や原子と比較的結合しやすい性質を持っており、結合する部分が1つのものを「単価不飽和脂肪酸」といい、2つ以上結合するものは「多価不飽和脂肪酸」といいます。

なたね油は、オリーブ油に次いで、この「オレイン酸」を豊富に含んでいます。(上表 参照)

一方、「リノール酸」は「多価不飽和脂肪酸」なので酸化されやすく、体内でも過酸化脂質の有害物質を作ってしまう。しかも「リノール酸」系の油脂は、マーガリン・マヨネーズ・ドレッシング・ファーストフード・フライ・ツナの缶詰・スナック菓子などで多用されていますから、知らず知らずに大量に摂取しています。

「トランス脂肪酸」(悪玉の脂肪酸/狂った脂肪酸)

健康より経済が優先された結果、自然界には存在しない油「トランス脂肪酸」を含む食用油が多くなってしまいました。大手メーカーの食用油は、昔ながらの圧搾法ではなく、多量の化学物質や水素を用いて抽出され、高温にさらされ有害物(トランス脂肪酸など)を生じます。現在市販されている大手メーカーのトランス脂肪酸はだいたい1~2.4%ぐらいです。欧米では食用油のトランス脂肪酸含有量の上限値は0.1%で、それを超えるものは販売禁止になり、たとえ超えていなくてもトランス脂肪酸の含有量の表示義務を定めています。しかし残念ながら日本ではまだ、このような基準が定められていません。

外食で使用されている食用油は、多くがトランス脂肪酸を2.4%ぐらい含む可能性の高い食用油です。外食時には油物はできるだけ避けましょう。「トランス脂肪酸」は、「がんの原因」「心臓病の原因」「血圧を上げる」「悪玉コレステロールを増やし、善玉コレステロールを減らす」「妊娠率を低下させる」「体内でビタミンなどの栄養物質を食い荒らす」など体に悪影響をもたらすことが報告されています。

「油菜ちゃん」は、常温圧搾方式ですから「トランス脂肪酸」は含まれにくくなっています。

「遺伝子組換え」

なたね油はクセがなく、あっさりしているので素材の味を引き出します。

しかし、最近ではほとんどのなたね油がカナダで改良された搾油用の品種「キャノーラ」になりました。育種の段階で「遺伝子組換え」した「キャノーラ」があり、原料は輸入がほとんどですので、使われているかどうかは不明です。

「油菜ちゃん」は、純国産であり、もちろん「遺伝子組換え」ではありません。

…と、いう訳で、「油菜ちゃん」は、あなたの大切な家族の必需品なのです！！

食用油には、なたね油を！ 南相馬の「油菜ちゃん」をどうぞ！！ (J)



事務局便り

1月29日、チェルノブイリ代表団の原さんと小牧さんが、様々な深刻な問題を抱える「ウクライナ」へ出向いて行く。二人は経験豊富な「ベテラン」派遣団であり、何があってもクリアするだろうが、そのお膳立てをする当方は、何度やっても、未だにひやひや物で、訪問団を送り出す。ウクライナに頼りになる駐在員（竹内さん）がいたという事が、どんなに心強かったことか。いざという時でもなんとかなり、事は円滑に進捗できたのだが。…新年早々泣き言。さて、今年は「チェルノブイリ 30 周年」そして「フクシマ 5 周年」である。26 年間チェルノブイリ支援に携わってきた私たちにこそできることは何かを探り、表現していければと思う。（山盛）

『お詫び』ポーシェをご愛読くださりありがとうございます。前号（150 号）P7 左列 11 行目『チェルノブイリの祈り』を訳されたのは、正しくは「松本妙子」さんです。お詫びして訂正します。（J）

今再び！「事故処理作業支援」キャンペーンにご協力を！（P7 参照）

原発事故後、ウクライナは新憲法を制定し「チェルノブイリの被災者を救済することは、国家の責務である」と明記しました。さらに原発事故 5 年後に、チェルノブイリ法を制定し「国が被災者の生活と健康を世代を超えて守り、被害の補償を続ける」と規定しました。しかし、昨年の代表団訪問時に得た情報によると、「ウクライナ東部で勃発した戦争に国家予算が費やされ、わずかな年金や補償がさらに削減されてしまい、生活に困窮し入院費が払えず、自宅療養での治療薬すら入手が困難」…とのこと。

「物価の高騰により、昨日買えた薬が今日は値上がって、手が届かない」…という状況なのです。規則正しく服用しなければならない治療薬なのに、やむを得ず「休薬」して更に体調を崩してしまう…もしも自分や大切な人だったらと、切ない思いです。

そうだ！ サレジオの子ども達を見習って、珈琲一杯を我慢して、寄付金のために貯金しよう！

皆さん！ 一つの小さな船に乗り合わせた私たちです。できることで助け合いましょう。（美）



<仲間を追悼する行進
(2011. 04/26) >

編集後記

☆農地再生協議会の杉内さんに、精魂こめて作られた玄米を頂いた。その玄米を食べて 1 週間…、お肌すべっすべっ♪つやつやつ♪ 玄米の威力恐るべしっ！ 杉内さんごちそうさまでした。（佳）

☆ええっ？「マイナス金利」!? 「利息」じゃなくて「保管料」を取るってこと？ 確か銀行は、お金を預かる所だったよね？ それはつまり「貸金庫屋さんになります！」ってということですか？（美）

☆欧米の金融デフォルト（債務不履行）が深刻な事態に陥っている。今までは、「大きすぎてつぶせない」という理由をつけて、政府が金融機関に公的資金（国民の税金）を注入し、仲間を救済してきた（ベイルアウト）。しかし、現在は預金者のお金を勝手に奪って、金融機関の借金返済に充てる「ベイルイン」が進行中である。「税金」という形であれ、「預金」という形であれ、私たち国民の財産を盗む詐欺であることに変わりない。金融の詐欺師たちは、「息をするように嘘を吐く」。（J）

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX (052) 871-9473